

妖精を

とらえた日

—R18—



◆恐怖のエンジェル◆

はい

おー サンキューー

なんか悪いな
奢ってもらってさ

いや
大した額じゃないから

ん!
!?

なあ、これ

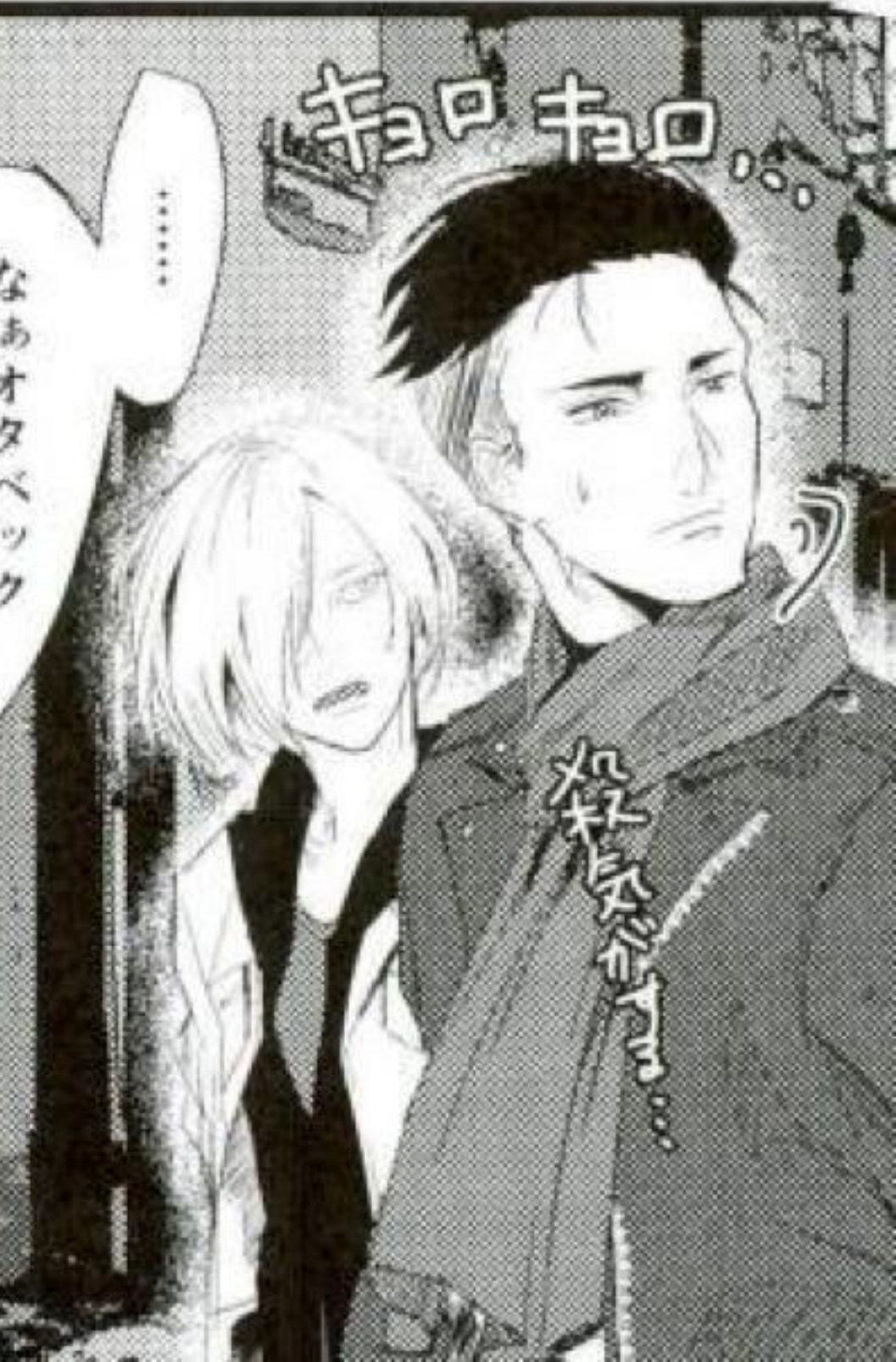
オレとお前の飲み物
反対じゃねえ？

！ ああ、悪い

ほらよ

こいつの
なんせだよ

.....









お前といると安心する
(友達っていいな)

そうか…
(俺は怖い)

お前はさ
オレといて
楽しい?

……(楽しいが)
ドキドキする



え?



え?



ああもしかして
緊張してんのか?

明日の
グランプリファイナル

ああ…まあ
(何かヘンなこと
言ってしまったな)



……

オタバック

おっ



ん?



※オタバック
フィルター

ハグすると
緊張ほぐれるぜ!
オレのじいちゃんが
よくしてくれた

agape!!

明日はお互い
やりきろうな!



来いよ

お、俺は今

生と死の
ハザマにいる

ヨロス

◆恐怖のエンジェル FIN◆

ピタッ...

今日俺は初めて
面と向かいユーリと話した



フツフツ...

友達になるかと
聞いたたら

返事は
イエスだった



一緒に過ごせば

思った以上に
居心地がいい



ユーリは一見
ヤンキーだが

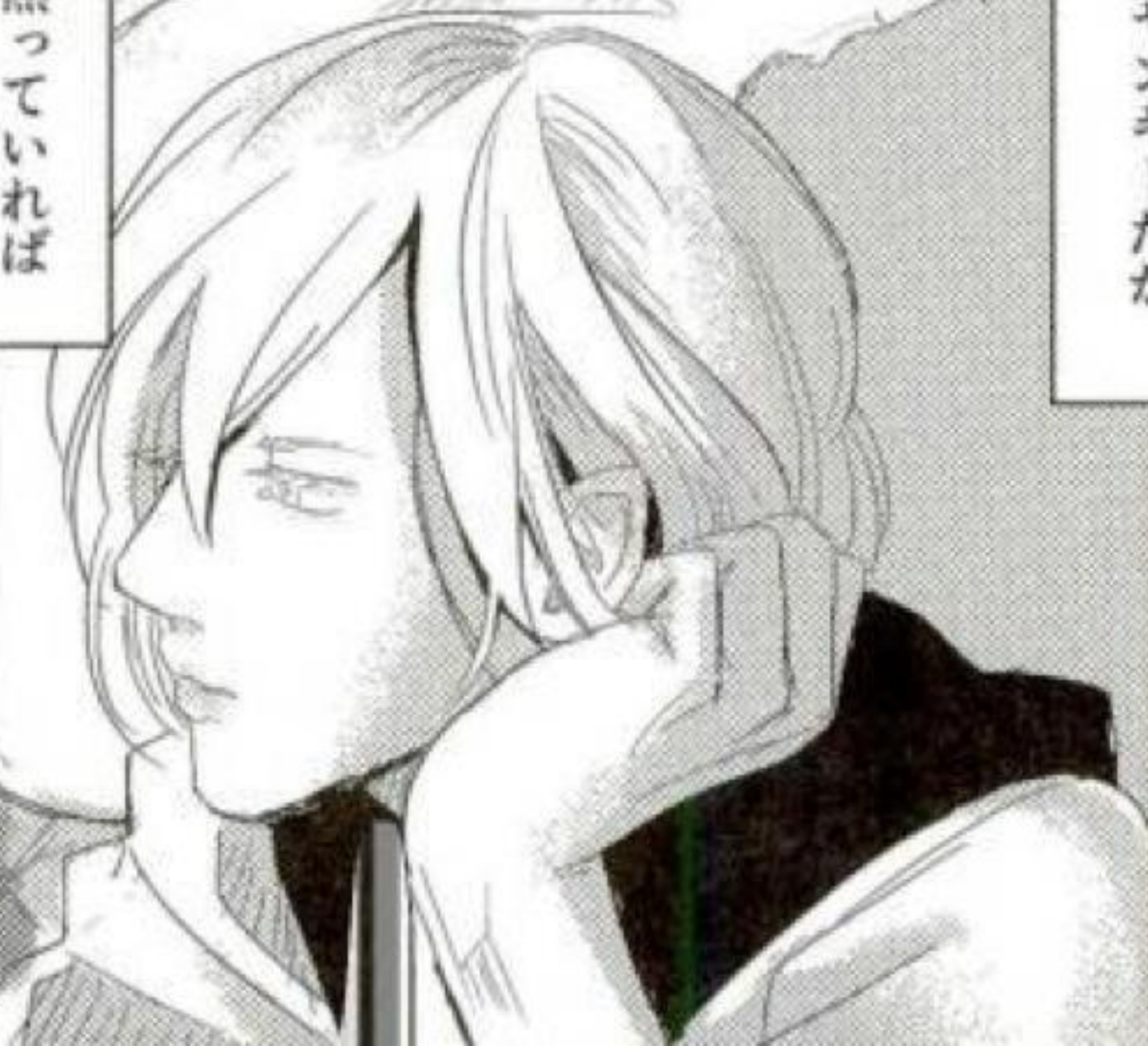


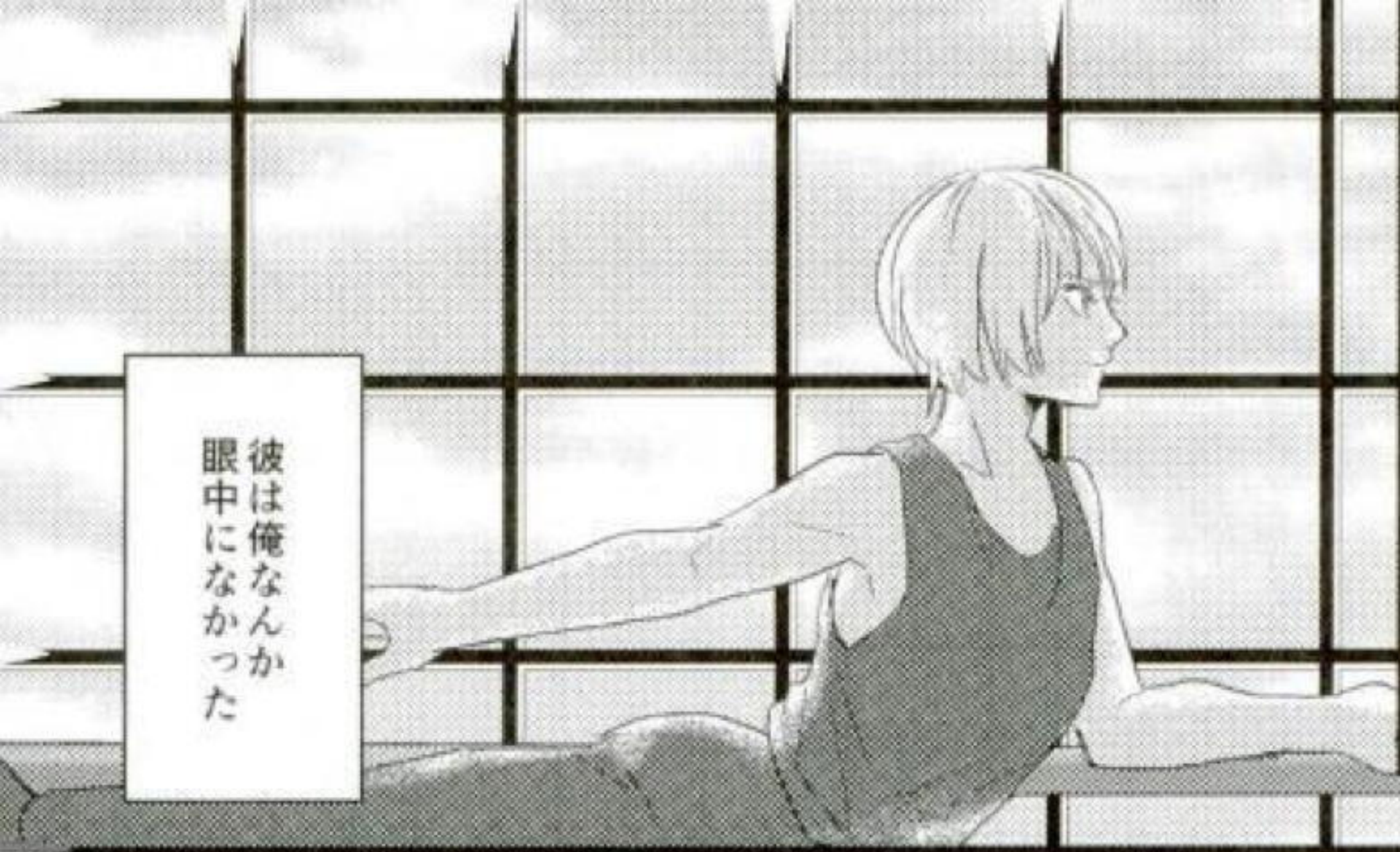
ウッ
まさか見知らぬ
下宿の
保護司さんか

Ring Ring!

黙っていれば

皆が「ロシアの妖精」と
呼ぶ理由も分かる






俺はユーリを
ジュニアの頃から知っているが

彼は俺なんか
眼中になかった



ジュニアの頃の彼は

ソルジャーの
目をしていた



彼は小さいながらも
俺よりもはるかに

強い意志と才能を
持ち合わせていた

そして

ロシア大会で
彼の演技を見たとき

非常に高さ
と流れのある
すばらしいジャンプ!



新たな一面が見えた

彼のageageは
いかにも未完成だったが

その愛を探求する姿は
俺の心を惹きつけた



俺は気になったんだ

お前の探求する
「愛」について



本当にすばらしい才能です
ユーリ・プリセツキー

俺とお前は
どこか似ている気がする



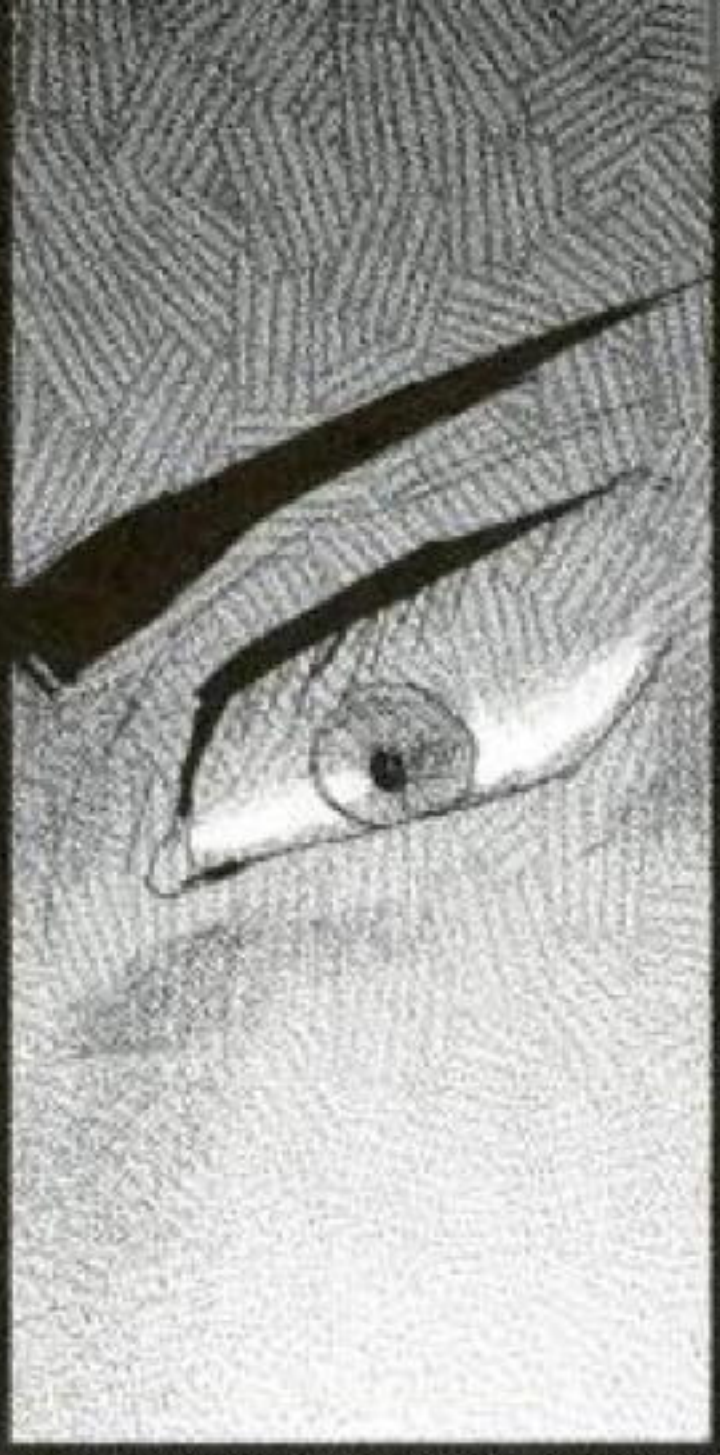
俺と話しているときの
ユーリ・プリセツキーは…



俺の
思い違いかもしれないが



勃って…



うれしいことがあったから
高揚しているのかもしれない

はあ…





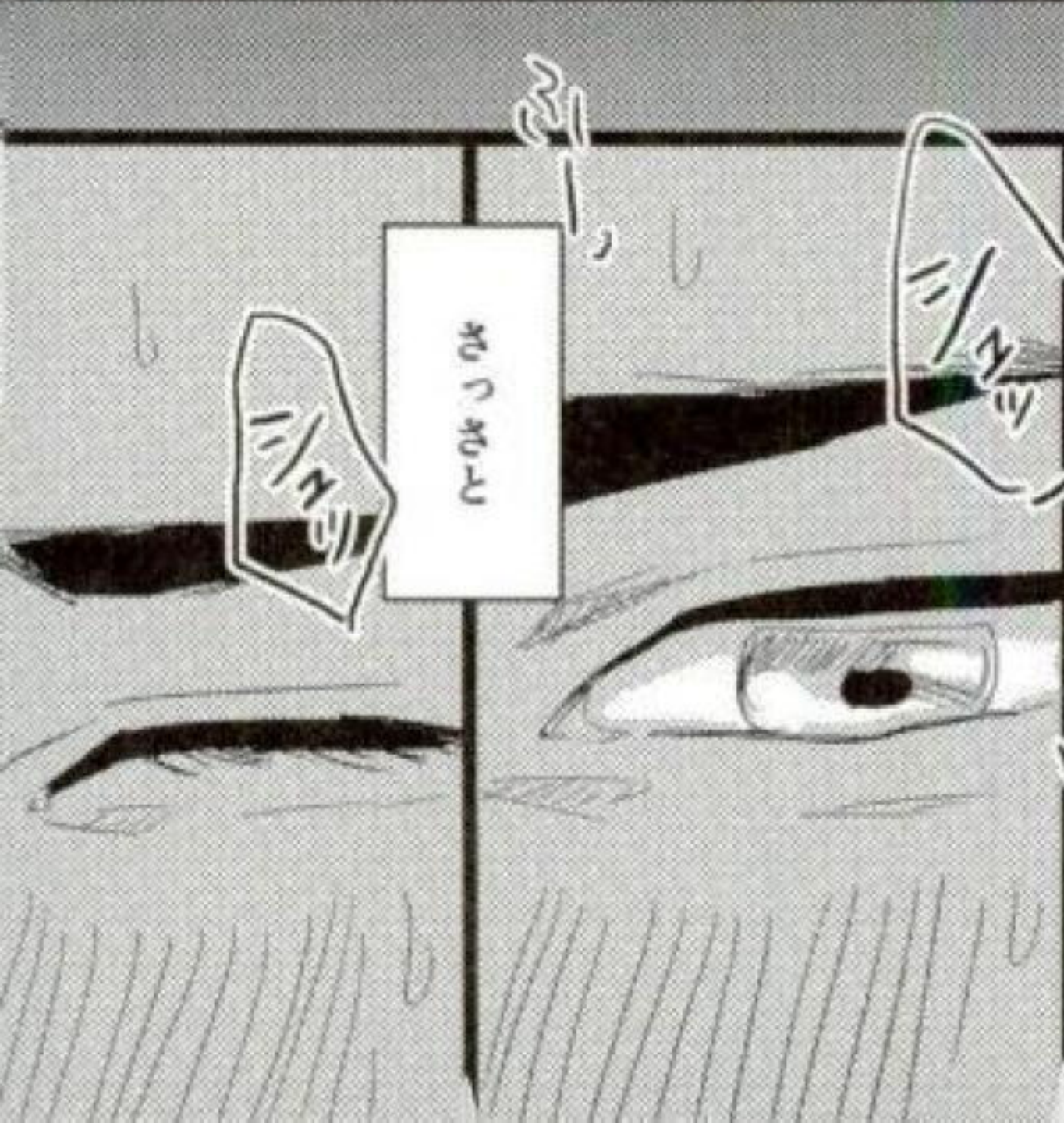
珍しくたくさん
しゃべったから



もしくは少し
疲れているのかもしれない



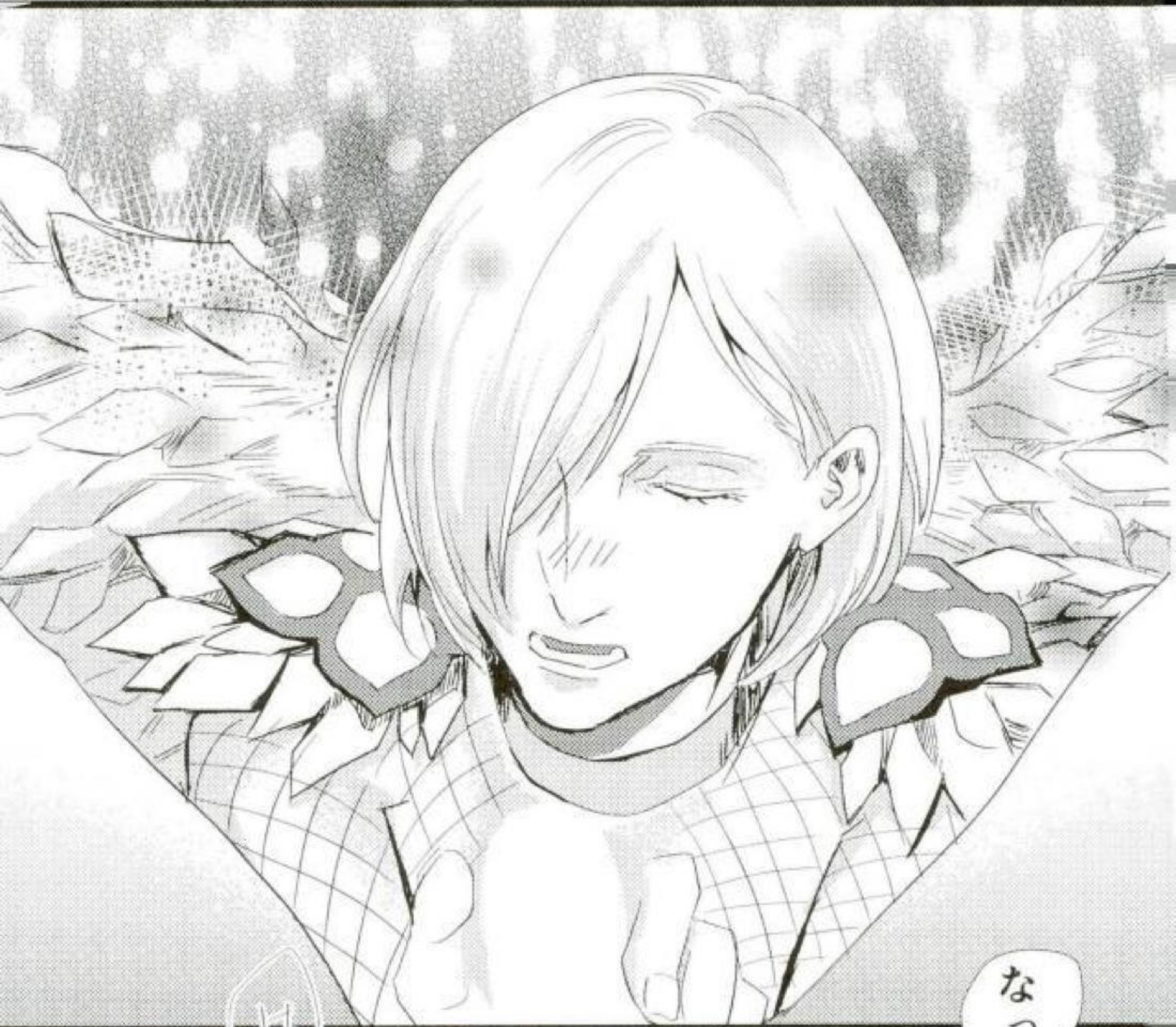
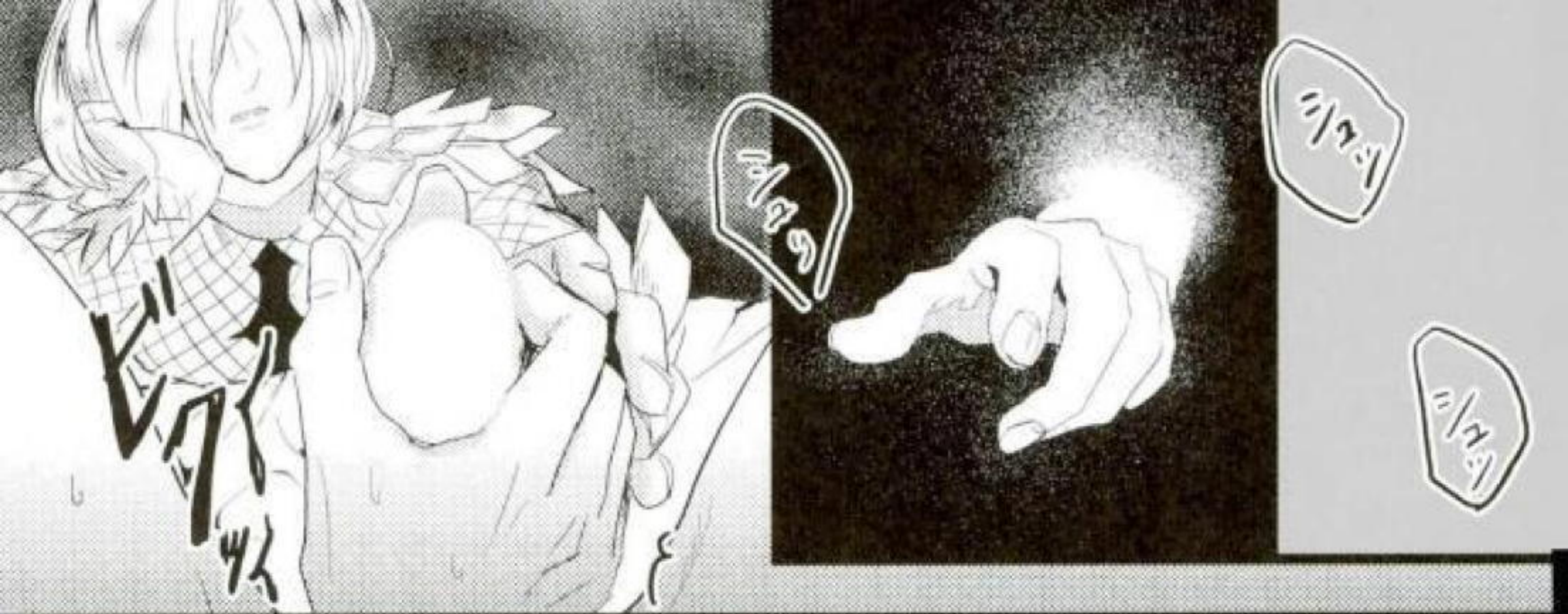
生理現象だ

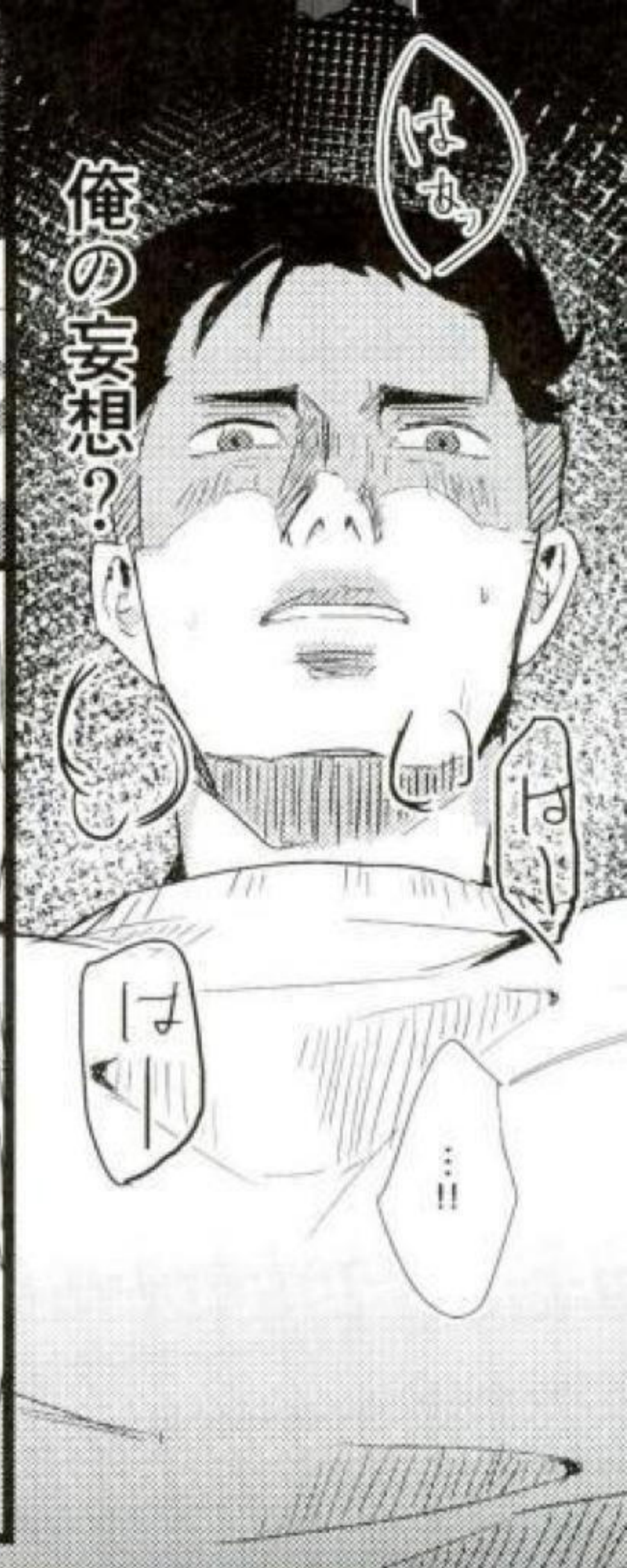


さっさと
終わらせたい

さっさと終わらせたい







俺の妄想？

はち

はち

はち

...



ユーリ



やめり



くちゅ

やめろ

ああ
あ

くちゅ

やめろ

イェイイェイ

やめろ

あ

くちゅ

やめろ

てい

てい

!!



…っはあ

フムム...

フムム...



ほー,

フムム...



フムム...







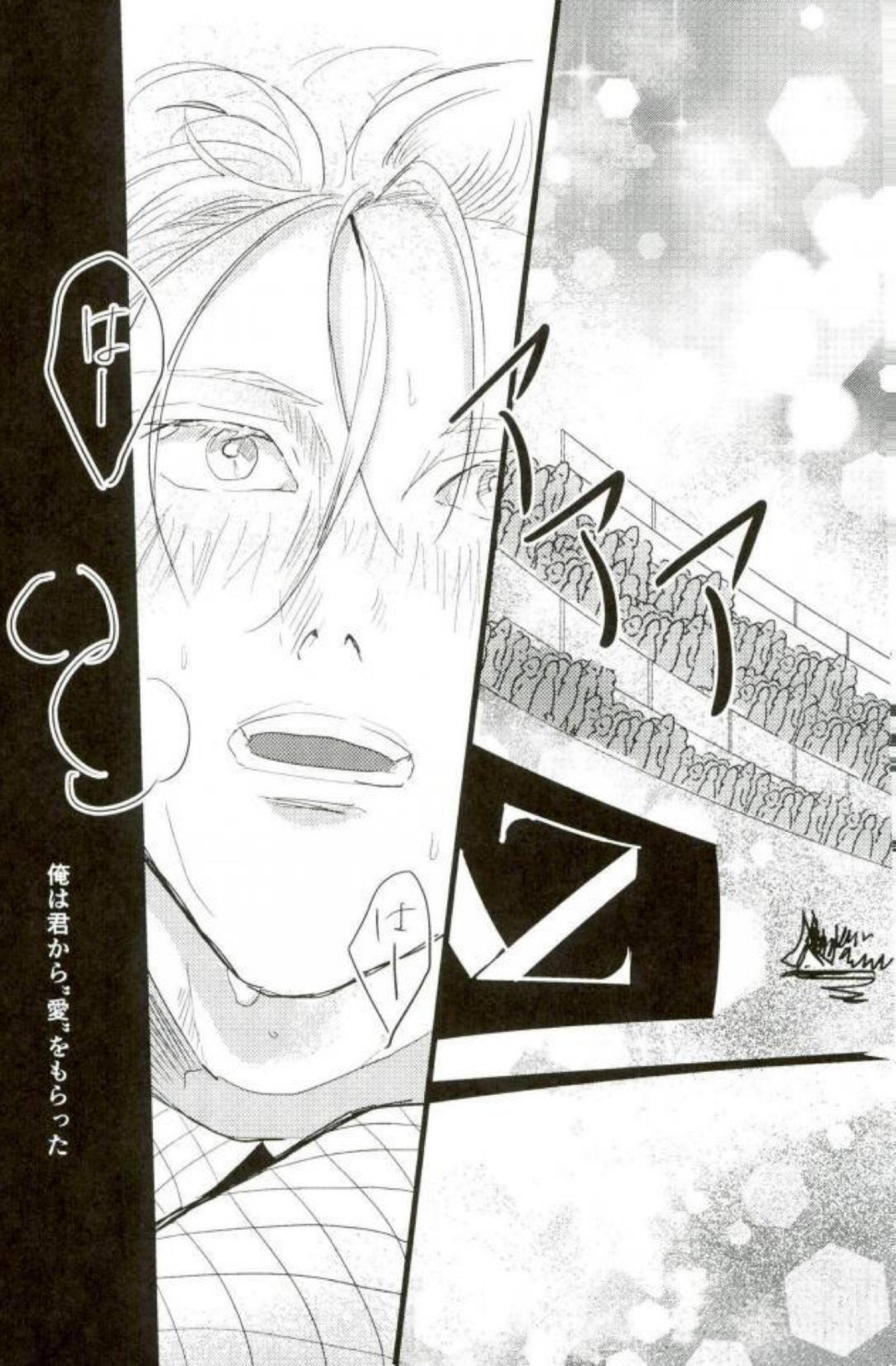
俺たちは
「友達」だ




成長し続ける
美しきモンスターが
今、大きな高みへ！

ワァァァ





俺は君から愛をもらった




これ以上の愛は、ないはずなのに

その先を望んだ俺がいた

どうか君が、この感情に気づかないで

FIN



妖精を
まじらった日

オタベック×ユーリ
"YOI" UNOFFICIAL FANBOOK/20170111